

令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	23人	算数	23人	理科	23人
第5学年	国語	22人	算数	22人	理科	22人

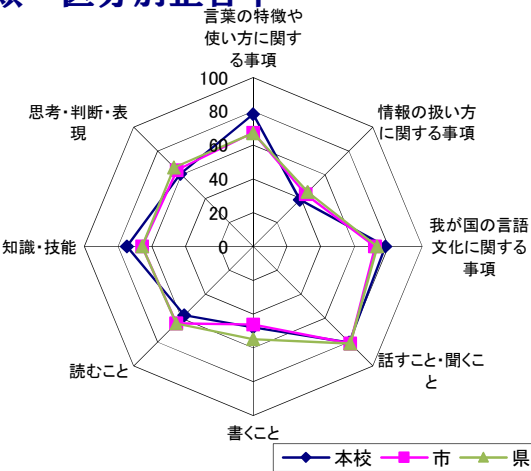
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	78.3	67.4	67.1
	情報の扱い方にに関する事項	39.1	43.8	45.7
	我が国の言語文化にに関する事項	78.3	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	80.4	81.2	81.2
	書くこと	47.8	46.2	54.9
	読むこと	57.6	64.3	64.5
観点	知識・技能	74.7	65.7	65.7
	思考・判断・表現	60.9	64.0	66.3



★指導の工夫と改善

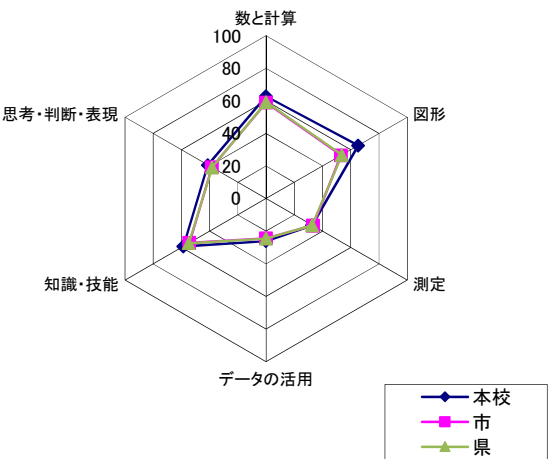
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○漢字を正しく読む問題では、どの問題においても市の平均正答率を上回った。 ●漢字を書く問題では、どの問題においても市の平均正答率を上回ったが、70%ほどの正答率であった。	・既習の漢字を生活の中で正しく使うように指導を継続していく。 ・定期的に漢字ミニテストを行ったり、朝の学習などで復習したりできる時間を確保する。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかをみる問題では、正答率が約4割と半分以下であった。	・多義性を持つ言葉の使い分けを理解し慣れるために、文脈に合った表記や意味を調べ、判断する練習を取り入れる。 ・国語辞典は国語科以外の時間でも利用するように勧め、活用を習慣づけるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市の平均より高い。 ○漢字のへんとつくりを正しく組み合わせて既習の漢字をつくることができるかをみる問題では、市の平均正答率を6.2ポイント上回った。	・既習の漢字から分かりやすい例を挙げ、部首と漢字の表す意味の関係についても理解させるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○話し手が伝えたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率を3.3ポイント上回った。 ●司会者の話し方の工夫を捉えることができるかどうかをみる問題では、市の平均を8.5ポイント下回った。	・話し合い活動の際に、意図的に役割をもたせ、それに合った話し方を身に付けさせたり、工夫を考えさせたりする。 ・日頃から大事なことを聞き逃さないような話の聞き方を意識させる。
書くこと	平均正答率は、市の平均より高い。 ○段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことができるかどうかをみる問題では、市の平均を13.7ポイント上回った。 ●指定された長さで文章を書くことができるかどうかをみる問題では、市の平均を3.3ポイント下回り、無解答率も39.1%であった。	・国語の時間に限らず、短い感想文や意見文を書く機会を多くもち、苦手意識を減らしていく。字数を決めて文を書いたり、考えを明確にしたりする練習を意図的に行い、条件に合わせて書く力の向上を目指す。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率を3.6ポイント上回った。 ●叙述を基に段落の内容を捉えることができるかどうかをみる問題では、市の平均を13.3ポイント下回り、4割程度の正答率であった。	・読み取りをする際には、常に叙述に戻ることや、段落の関係を意識することを指導していき、読む力の向上を目指す。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	62.8	58.9	59.2
	図形	65.2	53.0	53.7
	測定	32.6	33.1	32.6
	データの活用	26.1	24.4	24.6
観点	知識・技能	58.6	54.3	54.7
	思考・判断・表現	41.3	38.5	38.3



★指導の工夫と改善

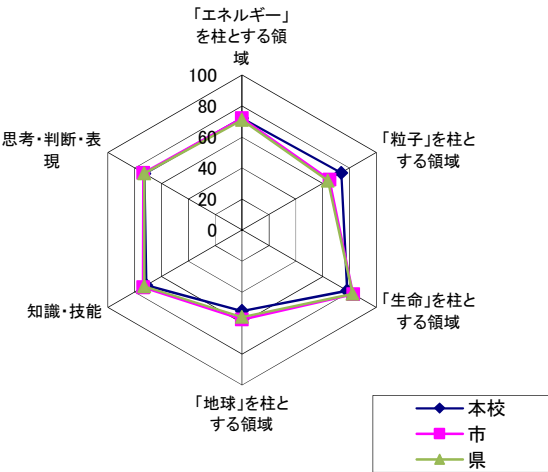
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は市の平均より高い。 ○3けた＋3けた＝4けたの計算では、正答率が91.3%と市の正答率を4.9ポイント上回った。 ○2けた×1けた＝3けたの計算では、市の正答率を14.1ポイントと大きく上回った。 ●式の意味を言葉で説明したものについて、正しいものを選ぶ問題では、市の正答率を14.7ポイントと大きく下回った。	・問題に慣れていない児童も見受けられるので、1人1台端末のAIドリルなどを活用して、数と計算の問題に慣れたり、更に親しんだりできるようにしていく。
図形	平均正答率は市の平均より高い。 ○球の半径を利用して箱のたての長さを答える問題では、市の正答率を10.3ポイント上回った。 ○円の性質を利用して正三角形を作図する問題では、市の正答率を22.0ポイントと大きく上回った。	・分度器、三角定規、コンパスなどについてはさらに正確に使えるように、その都度個別の支援をするなど、機会を増やしていく。
測定	平均正答率は市の平均よりやや低い。 ○はかりの目盛りを読み取り、重さを答える問題では、市の正答率を9.1ポイント上回った。 ●地図から2つの道のりを読み取り、差を答える問題では、市の正答率を9.7ポイント下回った。	・問題文や条件の中から比べるものを明確にし、数量の関係を読み取る問題に触れる機会を増やしていく。 ・問題の意図を理解できるように、日頃から丁寧に指導していく。
データの活用	平均正答率は市の平均より高い。 ○棒グラフを読み取り、落とし物の数が一番増えた種類を答える問題では、市の正答率を10.9%上回った。 ●示されたテーマについて、適切なグラフを選び、選んだわけを説明する問題では、正答率が8.7%で、市の正答率を2.3ポイント下回った。	・算数だけでなく、社会の授業や図書室の本、掲示物などの身近な資料の中からデータを読み取り、その特徴を説明する経験を重ねていく。 ・グラフを読み取るときには、表題や縦軸・横軸、目盛りの大きさなどに着目するとよいということを繰り返し指導していき、定着を図る。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	72.2	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	73.9	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	78.3	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	52.2	57.7	56.2
観点	知識・技能	71.4	73.8	72.8
	思考・判断・表現	72.8	73.7	72.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○音の大小とふるえかたの違いについて理解しているか、実験の結果から回路の見えない部分について推測できるかどうかの問題は、どちらも市の正答率を10ポイント以上上回っている。 ●実験の結果から風がものを動かす働きの変化を読み取る問題では、市の正答率を9.5ポイント下回った。短答式の問題で、無回答の児童が1割いた。	・実験のまとめをするだけでなく、実験のデータから考える時間を確保し、事実や事象を詳しく整理する学習を取り入れて、力の向上を図る。 ・既習事項や身近な体験とを結び付けて考える機会を意図的に取り入れ、理解が深まるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より高い。 ○形を変えても重さはかわらないことについて理解している。 ○同じ体積でも、重さがちがうことについて表と関連付けて考える問題では、市の正答率を14.2ポイント上回っている。	・発展的に様々な問題を取り扱い、問題文を読み解く力を伸ばしていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○昆虫のすみかについて理解しているかどうかの問題では、正答率100%だった。 ●虫めがねの使い方を身に付けているかの問題では、市の正答率を11.8ポイント下回った。 ●植物の育ちや昆虫の育ち方の違いを見出すことができるかの問題では、市の正答率を下回った。	・観察の機会には、虫眼鏡を積極的に活用したり観察のポイントを確認したりする指導を繰り返す。 ・図鑑や資料を積極的に活用し、与えられた情報を正確に読み取り、比較する機会を設ける。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より低い。 ○かげのできる向きとかげふみで逃げる方向について選ぶ問題では、市の平均率を上回った。 ●太陽が動く方位を理解しているかどうかを問う問題では、市の正答率を11.6%下回った。	・身近なところに温度計や方位磁針などを設置して子供たちの目に触れる機会を増やし、気温や方位を意識する環境を整えるなどして、更なる定着を目指す。

宇都宮市立上河内東小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている。」「学校の宿題は、自分のためになっている。」の肯定的回答が100%であった。学習に対してとても前向きな姿勢で取り組んでいることが伺える。また、「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている。」の肯定的回答が100%であった。あきらめないで粘り強く学習に取り組もうとしている児童が多い。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の肯定的回答が100%と、児童は学習におもしろさや楽しさを見出したり、将来の自分のためにと前向きに学習に取り組んだりしていることが分かる。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定的回答は84.6%と、県の平均を20.1ポイント上回った。日頃の調べ学習や自主学習を通して、1人1台端末の活用を含め、いろいろな媒体を通して情報を集めたり、使い分けたりしている児童が多いことが分かる。

○●「友達と話し合う時、友達の話や意見を最後まで聞くことができる。」に対する肯定的回答は100%であった。話し合い活動で友達の意見や話をよく聞き、自分の考えを広げたり深めたりすることができる児童の割合が高いことが分かる。その一方で、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」の肯定的回答は46.2%と県の平均よりも低い。発言できる場面や経験を積み重ねて自信をもたせていく必要がある。

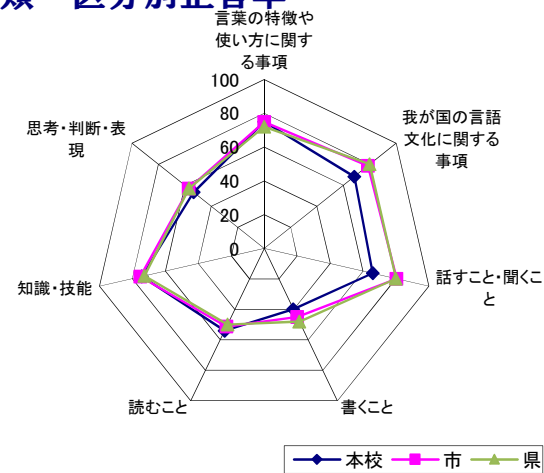
○「学校のきまりを守っている。」の肯定的回答は100%で、それに関連した「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる。」の肯定的回答も100%であった。責任感があり、黙々と取り組める児童が多い。その半面、「自分はクラスの人の役に立っていると思う。」の肯定的回答は76.9%であることから、児童同士を含めた温かい言葉かけの交流を更に活発化させていく。

●算数の問題を解く時間について、「やや足りなかった」や「足りなかった」と答えた児童の割合が23%であり、後半部分の回答が無答の児童も見られた。学力調査の問題の形式に慣れていないことや時間配分の仕方などに加え、既習事項をスムーズに思い出して活用することが苦手な児童が多いようである。これまでの学年で学習した内容についても時々反復練習を行うことで、より一層しっかりと定着させるようにしたい。また、様々な形式の問題に触れさせることで、自信をもって問題に取り組める児童を増やせるようにしたい。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	75.0	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	68.2	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	65.9	80.4	80.0
	書くこと	39.8	45.1	48.0
	読むこと	54.0	51.3	50.0
観点	知識・技能	74.4	75.2	72.8
	思考・判断・表現	53.4	57.0	57.0



★指導の工夫と改善

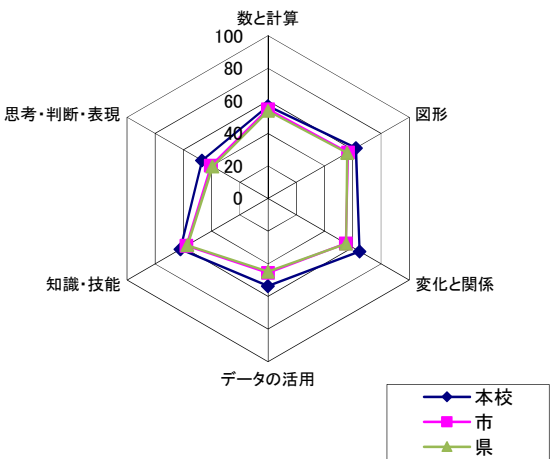
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均とほぼ同じ。 ○漢字を正しく読む問題では、3問中2問の正答率が100%であった。 ●文の中における修飾と被修飾の関係を捉えることができるかどうかを見る問題では正答率が0%であった。	・音読や漢字練習を通して、漢字の読み書きの力を高められるような指導を継続して行っていく。 ・物語文や説明文の読み取りの際には、文の構成についても触れ、修飾と被修飾の関係についての理解を深められるようにしていく。 ・問題文を読み間違えている可能性も考えられたため、問題文をしっかりと読むことの指導も合わせて行う。
情報の扱い方に関する事項		
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●慣用句の意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかをみる問題では、市の正答率より10.4ポイント下回った。	・読書や自主学習などで慣用句やことわざなど、伝統的に使われる語句に触れる機会を意図的に設け、関心を高めるようにする。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることができるかどうかをみる問題では、正答率が、市の正答率より29ポイント下回った。	・国語の授業に限らず、朝のスピーチや授業中の友達の発言など、日常の中で話の中心に気を付けて話を聞くことを意識づける場を意図的に設け、繰り返し指導する。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書くことができるかどうかをみる問題では、正答率が、市の正答率より10.9ポイント下回った。 ●登場人物の気持ちの変化を想像することができるかどうかをみる問題では、無回答率が18.2%だった。	・視点を明確にした振り返りや、テーマを決めた作文指導など、1人1人が自分の考えをしっかりとまとめる活動を取り入れる。 ・他教科においても、自分の考えを書く活動を積極的に取り入れ、自分の考えを自信をもって文章に表すことができるようにする。
読むこと	平均正答率は、市の平均より高い。 ○説明文の内容を読み取る問題では、すべての問題で、市の平均正答率を上回った。特に、叙述を基に段落相互の関係を捉えることができるかどうかをみる問題では、市の平均正答率より19.7ポイント上回った。 ●物語の内容を読み取る問題では、すべての問題で市の平均正答率を下回った。	・物語文を読む際に、言葉や文に着目したり、人物像やその変容についての解釈を繰り返し考えたりする指導を引き続き行い、登場人物の心情や情景を想像したりすることの習慣化につながるようにする。 ・音読や読書を励行していく。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	56.8	54.9	53.7
	図形	62.1	56.6	56.1
	変化と関係	64.8	55.1	55.2
	データの活用	53.6	45.5	44.8
観点	知識・技能	62.2	57.8	57.2
	思考・判断・表現	46.8	40.6	39.5



★指導の工夫と改善

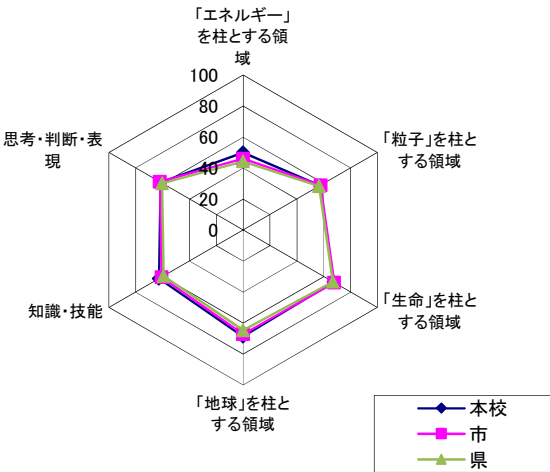
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より高い。 ○小数第一位×整数の計算ができるかどうかをみる問題では、市の正答率を13.8ポイント上回った。 ○小数のしくみを理解し、大きさを比べることができるかどうかをみる問題では、市の正答率を12.6ポイント上回った。 ●四則混合の式の計算の順序を理解しているかどうかをみる問題では、市の正答率を10.6ポイント下回った。	・四則計算の順序について確認したうえで、1人1台端末でAIドリルなどを活用して、様々な場面を想定した問題に触れる機会を意図的に増やしていく。
図形	平均正答率は、市の平均より高い。 ○立体の展開図について理解しているかどうかをみる問題では、市の正答率を20.8ポイント上回った。 ○180°より大きい角の大きさの求め方を理解しているかどうかをみる問題では、市の正答率を11ポイント上回った。 ●いろいろな面積の求め方を理解しているかどうかをみる問題では、市の正答率を5.3ポイント下回った。	・様々な図形の面積を求める公式を覚えるだけではなく、具体物进行操作する活動などを通して、なぜその公式になるのかを考えたり、理解したりするための時間を増やしていく。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より高い。 ○全ての設問で市の正答率を上回った。 ○表を縦に見ることで、伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことができるかどうかをみる問題では、市の正答率を13.2ポイント上回った。 ○割合のしくみを理解しているかどうかをみる問題では、市の正答率を13.3ポイント上回った。 ●比べ方について差を用いる場面と割合を用いる場面について説明することができるかどうかをみる問題では、正答率が40.9%にとどまった。	・割合で考える際には、数直線を用いて何を1としてみるのかを整理してから問題に取り組めるよう習慣化していく。
データの活用	平均正答率は、市の平均より高い。 ○折れ線グラフから、必要なことを読み取ることができるかどうかをみる問題では、市の正答率を14.4ポイント上回った。 ○グラフから正しく変化の様子を読み取ることができるかどうかをみる問題では、市の正答率を13.3ポイント上回った。 ●折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから、傾向を読み取ることができるかどうかをみる問題では、市の正答率を0.5ポイント下回った。	・算数だけではなく、社会や理科の授業や図書資料、掲示物などの身近にある様々なグラフからデータを読み取ったり、記録したりする経験を重ねていく。 ・グラフを読み取るときには、表題や縦軸・横軸、目盛りの大きさなどに着目するとよいということを繰り返し指導して定着を図る。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	50.0	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	57.3	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	67.3	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	68.7	67.2	64.6
観点	知識・技能	62.7	60.8	59.2
	思考・判断・表現	61.5	62.1	60.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均より高い。 ○簡易検流計の針のふれ方からわかることを答える問題については、市の正答率を14.2ポイント上回った。 ●電流が大きくなる回路を選ぶ問題については、市の正答率から5.2ポイント下回った。	・乾電池のつなぎ方や簡易検流計の使い方などはよく理解できている。しかし、実験結果を考察し、それをまとめることに課題が見られるので、まとめや考察を行う時間を確保し、事実を関連付けて整理する力の向上を図る。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均とほぼ同じであった。 ○閉じ込めた空気の性質について理解しているかどうかをみる問題では、市の正答率を9.6ポイント上回った。 ●湯気と水蒸気の違いの理解を問う問題では、市の正答率を9.7ポイント下回った。	・実験の結果を考察し、起こった事象の理由を考えたり、学んだことを実生活に結びつけて考えたりすることに課題が見られる。その為、日常生活においても、理科学的な視点を大切にすることを意識させ、知識の定着や思考力の向上を図っていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○関節の名称を答える問題については、市の正答率を8.5ポイント上回った。 ●夏の植物の成長についての理解を問う問題については、市の正答率を21.3ポイント下回った。	・観察活動では、観察する観点(色・形・大きさなど)をしっかり示したり、文章に示す場合は、長さや数などの数値も書くように指示を出したりすることで、生き物への興味・関心を高められるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、市の正答率よりやや高い。 ○実験の結果から水の流れる向きを読み取る問題については、市の正答率を12.1ポイント上回った。 ●月の動き方を理解しているかを問う問題については、市の正答率を15.6ポイント下回った。	・星座や星の早見盤の使い方を丁寧に指導し、家庭での観察に生かせるようにする。また、1人1台端末でデジタルコンテンツを活用し、星や月の位置の変化のイメージを広げ、実際の観察にも生かせるようにする。

宇都宮市立上河内東小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学習面に関して、「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」、「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」の肯定的回答が100%であった。このことから、学習する内容を地域や世の中の出来事と結び付けていることが分かる。また、「学校の宿題は、自分のためになっている」、「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」も100%の児童が肯定的回答をしており、学習は自分のためになるし楽しいものだ、と意欲的に学習に取り組んでいると言える。そのため、どの教科も「好き」、「将来のために大切」と思っている児童が多く、「授業を集中して受けている」と肯定的な回答をした児童は100%であった。今後も学習への意欲が維持できるよう、身近なことや将来の生活と関連づけた授業の展開を意識し、学習への有用感やおもしろさを感じられるようにしていきたい。

○生活面に関して、「人と話すことは楽しい」、「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」、「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」、「学校のきまりを守っている」の肯定的回答がいずれも100%であり、学校で周りの人と関わりながら良好な人間関係を築いていることがうかがえる。学級活動や休み時間などで子どもたちの関わり方や気持ちの表し方の良さを生かしながら、さらにクラスメイトや周囲の人と温かい接し方ができるよう支援していきたい。

○「毎日の生活が充実していると感じている」の肯定的割合は100%であり、自分の生活への満足度が高いことが分かった。上記の学習面、生活面の有用感や満足感が関係していると考えられる。

●「自分は勉強ができる方だと思う」で否定的な回答をした児童が40.9%おり、市の平均よりも1.4ポイント高いことから、勉強への苦手意識をもっている児童が多い傾向にあることが分かる。いずれも市の平均よりも低いものの、「自分の行動や発言に自信をもっている」では31.8%、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」では、45.5%が否定的な回答をしている。このことから、自分の考えを表出することに不安を抱えている児童がいることが考えられる。また、「自分はクラスの人の役に立っていると思う」の否定的回答は40.9%、「自分には、よいところがあると思う」の否定的回答は18.2%であり、自信を失っている児童もいることが明らかになった。学習への定着を図り、学習への苦手意識を払拭するだけでなく、自他を多面的に捉え、それぞれの良さをたくさん見つけたり、認め合ったりすることができるような機会を増やしていきたい。

宇都宮市立上河内東小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
書く力を高めるための取組	様々な教科での学習や場面を利用して、書き方の形式に沿って書いたり、自分の考えを書いたりする活動を意図的に取り入れていく。	自分の考えを書く設問においては、国語、算数ともに、正答率が市の平均正答率を下回ったものが多かった。一方で、国語の「2段階構成で書く」や算数の「グラフの変化の様子を説明する」設問では、市の平均正答率を10ポイント以上上回った。取組の成果が少しずつ表れているところなので、引き続き、書く力を高める手立てを考えていく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意である」と感じていない児童や、「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」と感じている児童が過半数であった。	自分の考えを形成し、表現する力を高める取組	・具体的な言語活動の見通しをもち、どのように活用していくかを意識できるような指導を行う。 ・自分の考えを明確にして、互いの感想や意見を伝え合う場を設定する。